

芝町遺跡と諸羽神社・若宮八幡宮の御旅所

この辺りは、「芝町遺跡」という、縄文時代、弥生時代、奈良時代にわたる遺物が発見されている遺跡です。この辺りは昔から「芝ノ町」と呼ばれており、それが遺跡名となっています。四ノ宮（芝畑町・奈良野町）・音羽（平林町・珍事町）・小山（神無森町）にかけての扇状地に位置しており、縄文土器や有孔磨製石斧（石を磨いて作られた斧）、打製石斧（石を打ち欠いて作られた斧）、須恵器（灰色の硬質土器）、平瓦などが発掘されています。

また、この道を南へ約30m入ると、東（左）側に諸羽神社と若宮八幡宮の御旅所があります。この御旅所の祭祀は、古代信仰の原始的形態とも言える磐境（いわさが（いわくら）巨大な石に対する自然崇拜）を中心としたものであるともいわれています。



【諸羽神社・若宮八幡宮の御旅所 中央の岩が「磐境」】

この案内板は、区民参加により作成した冊子『京都山科東西南北 ～区民が選んだ魅力を訪ねて～』に掲載した魅力を紹介するものです。

その他の魅力については、山科区役所のホームページ <http://www.city.kyoto.lg.jp/yamasina/index.html> から「京都山科東西南北」をご覧ください。

山科魅力展開プロジェクト
山科区役所区民部まちづくり推進課
平成23年3月